

## EasyAdmin Windows認証 – KB4031b

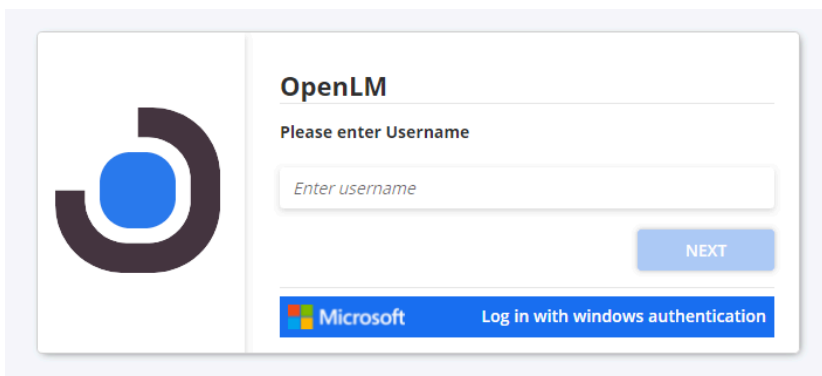
OpenLM EasyAdmin管理ウェブインターフェイスはロールベースのセキュリティスキームを実装し、組織の様々なロールのユーザーへ様々なレベルのアクセスを提供します。

OpenLMはディレクトリサービスの同期も実装し、ディレクトリサービス（例：アクティブディレクトリ）情報とライセンス管理を組み合わせて、自動的にユーザーとグループのデータを維持します。

バージョン3.3では、OpenLMはWindows認証スキームを提供するこれらの機能が組合されました。この機能は通常のWindowsのログインプロセスに従うEasyAdminウェブアプリケーションへの直接のアクセスを可能にし、組織のディレクトリサービスで登録されたユーザー名とパスワードを採用します。

### どのように見えるか？

EasyAdminウェブアプリケーションを立ち上げると、ユーザーはOpenLMに入る選択を与られます- 特定の認証 (ユーザー名とパスワード)か、マシンにログインするのに使用したのと同じWindows認証を使用します。



## 1. 事前要件

OpenLMインストレーションでWindows認証機能を実装するためには、次の事項が必要です:

1a. 次の機能を含めた有効なOpenLMライセンスファイル:

- Roles\_Based\_Security



- Directory Synchronization (External\_Platforms)

1b. サポートされるウェブブラウザのいずれかを採択:

- Microsoft Edge - 最新バージョンを使用してください
- Mozilla Firefox - 最新バージョンを使用してください
- Google Chrome - 最新バージョンを使用してください

1c. Windowsのネットワークドメイン内でユーザーを認証し権利を与えるアクティブディレクトリのドメイン

1d. アクティブディレクトリドメインコントローラーへのアドミンアクセス

1e. マイクロソフトIISウェブサーバー: OpenLMソフトウェアはLightTPDと共に配布されています。ビルトインのウェブサーバーです。Windows認証を採択するためには、EasyAdminユーザーは代わりにマイクロソフトIISに切り替える必要があります。こちらの[ドキュメント](#)の説明に従ってください。IISウェブサーバーでの編集権利が必要です。

## 2. アクティブディレクトリ同期

アクティブディレクトリ同期を実行するには、OpenLMデータベースにユーザー名をインポートします。次のいずれかを実行してください:

- [LDAP \(アクティブディレクトリ\)同期: クイックガイド](#)
- [LDAP \(アクティブディレクトリ\)同期: フルガイド](#)

## 3. アドミンロールを割り当て

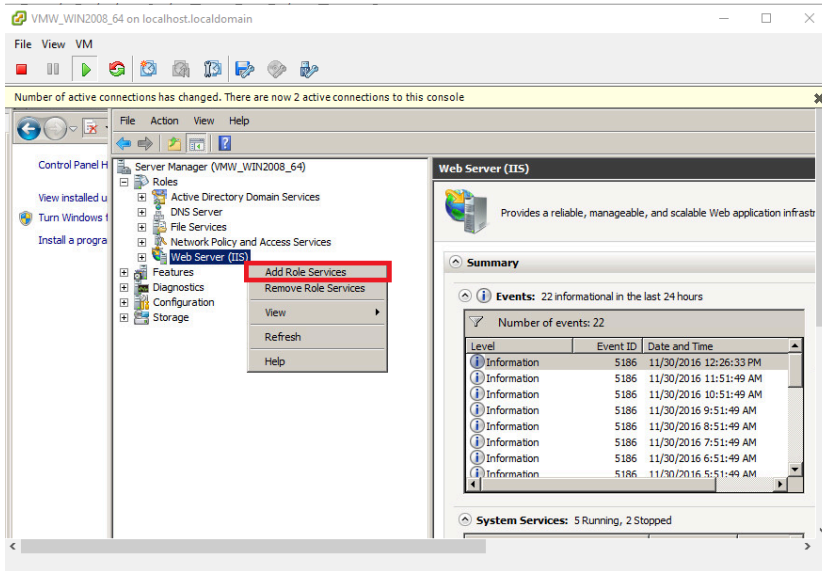
次のステップはOpenLMのロールと許可セキュリティ機能を有効にすることです。特定のユーザーやグループにアドミン権限を割り当てましょう。次のドキュメントに従ってください:

- [ロールと許可グループベースのセキュリティ - AN4006](#)

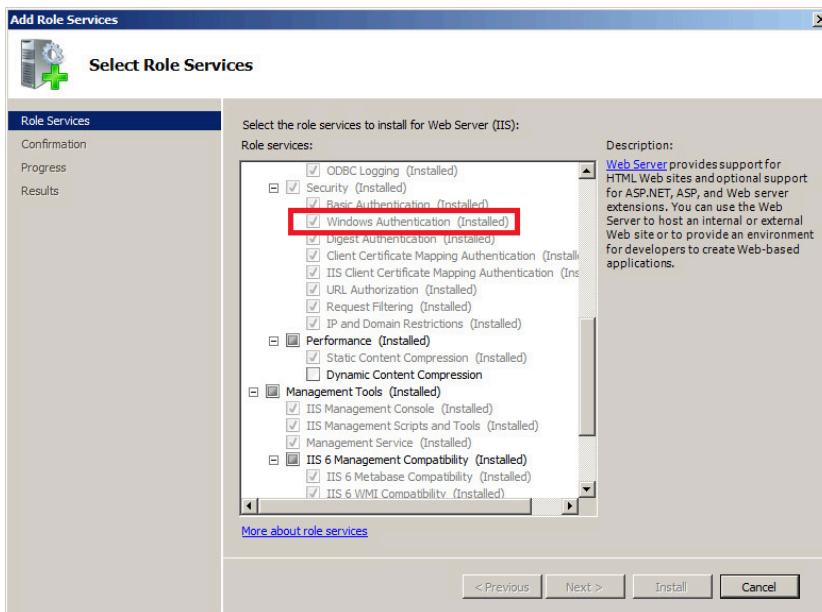
## 4. IISのWindows認証を有効

4a. マイクロソフトIISウェブサーバーでサービスロールを追加  
web server: (Control panel (コントロールパネル) → Programs and features (プログラムと機能) → Windows機能のオンオフ → Roles (ロール) → Web server (IIS) → Add Role Services (ロールサービスの追加) )

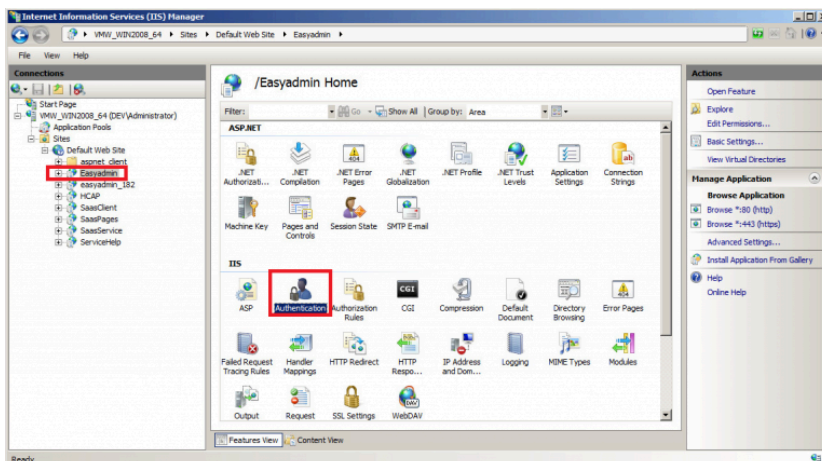




4b. “Windows Authentication”（ウインドウズ認証）が必ず‘Installed’（インストール）されているか確認する。



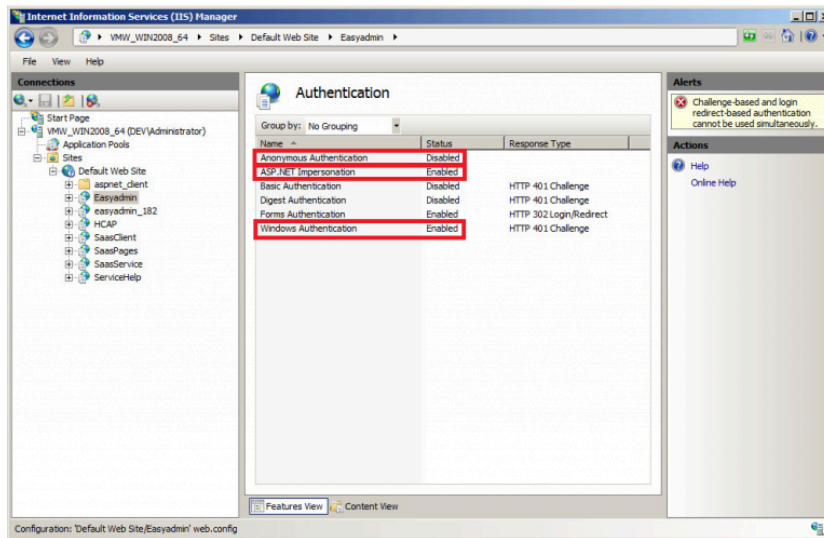
4c. IISマネジャーで、EasyAdminウェブアプリケーションを選択し、‘Authentication’（認証）アイコンをクリックする。



4d. ‘Authentication’（認証）ウィンドウで次を設定:

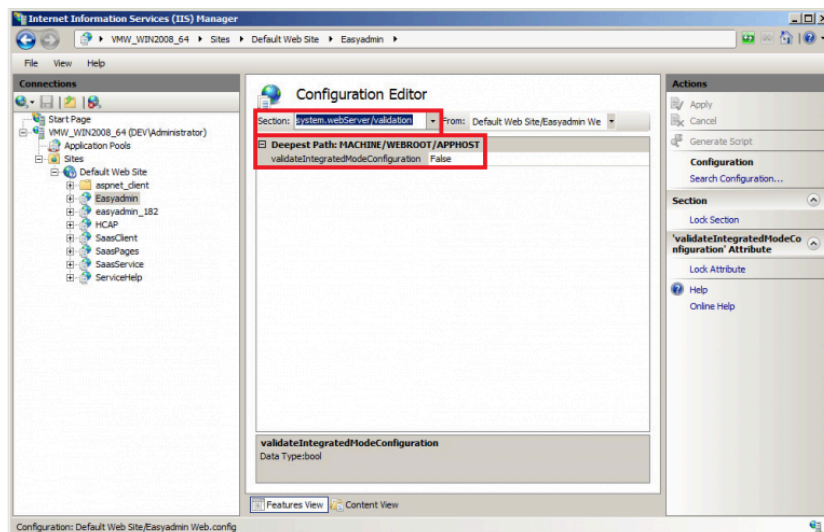


- Windows authentication (Windows認証) を有効化
- ASP.Net Impersonation (ASP.Net偽装) の有効化
- Anonymous authentication (匿名認証) の無効化



4e. IISマネジャーで、'EasyAdmin'ウェブアプリケーション上で、“Configuration Editor”（エディターの設定）アイコンをクリックする。

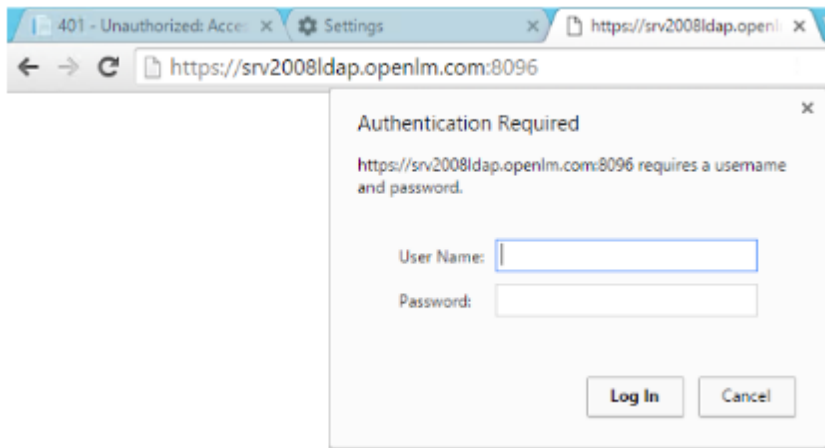
4f. 設定エディターで、system.webserver/validationセクションを選択し、validateIntegratedModeConfigurationの値を'False'に設定。



## 5. ブラウザ設定

追加の設定がウェブブラウザに必要です。下図の様な認証ダイアログウインドウを避けるためです:





## 5.1 ChromeとInternet Explorerの場合

### 5.1.1 Internet Explorerブラウザを開始

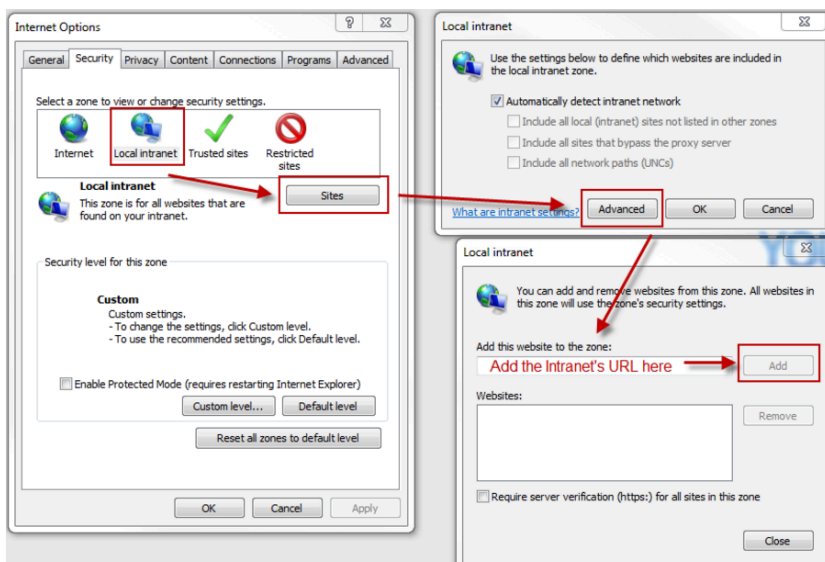
### 5.1.2. Tools（ツール）を選択 → Internet Options（インターネットオプション）

### 5.1.3 'Security'（セキュリティ）タブをクリック

### 5.1.4 "Local Intranet Zone"（ローカルイントラネットゾーン）を選択

### 5.1.5 'Sites'（サイト）をクリック → 'Advanced'（アドバンス）

### 5.1.6. ローカルイントラネットサイトを入力（例； https://servername.openlm.com）し、'ADD'（追加）ボタンをクリック



## 5.2. Firefoxの場合

### 5.2.1 Firefoxアドレスバーで"About:Config"と入力

### 5.2.2 同意プロンプトが過ぎたら、フィルターボックスに'NTLM'と



## 入力

### 5.2.3 “network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris”エントリをダブルクリック

注意: Environments limited to Kerberos認証に限定された環境でNTLM認証を受け入れない場合は、network.negotiate-auth.delegation-urisも調整する必要があります。

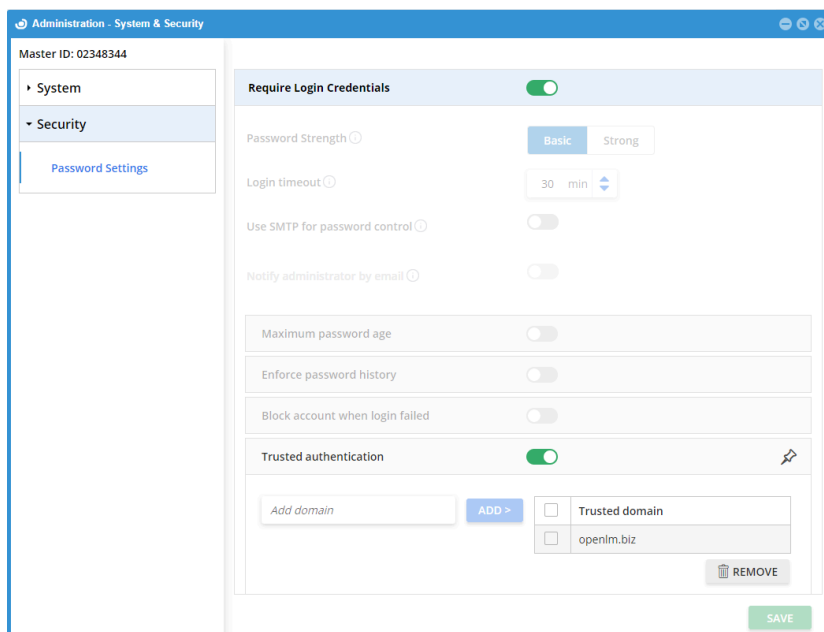
### 5.2.4. ローカルイントラネットサイトを入力

(https://servername.openlm.com)し、'OK'をクリック。 .

## 6. EasyAdminの設定

Windows認証を有効化する最後のステップはEasyAdminの管理UIで設定しなければなりません :

1. EasyAdminブラウザを開いてください
2. **スタート** → **管理** → **システム& セキュリティ**アイコン。管理システムウィンドウが現れます。
3. 右側で**セキュリティ** → **パスワード設定**タブを選択。
4. **ログイン認証が必要**スイッチをONであるか確認し、**信頼認証 (ドメイン)** をONにします。



5. 貴社のドメイン名を入力 (例 : openlm.biz)し**Add (追加)** をクリックして信頼ドメインリストに追加してください。

6. **Save (保存)** をクリックして設定を保存します。



# 以上です!

EasyAdminウェブアプリケーションがWindows認証を使用する事が出来るようになりました。このプロセス中に問題にあった場合、[サポートチーム](#)にコンタクトしてください。喜んで設定をお手伝いさせていただきます。

+81 (0)50 5893 6263

[sales@openlm.com](mailto:sales@openlm.com)

